

東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文・柳たかを

小学1年時の誤解

今回は小学1年生のとき、はじめて集団健康検診を受けた時のシーンのある部分が残っているので、それをもとに描いたエピソードです。

子供達は上半身裸になり、カルテを持たされ、看護師の前に名簿順に行列を作って並ばされた。当時は1年生～6年生ともに各学年5クラスずつ、1クラス約45人前後と児童数が多く、行列を乱さず静かに順番待ちを強いられたのが苦痛でした。

1年生の新学期早々で、まだ冗談を言い合える友達もいないため沈黙がさらに窮屈でした。

その時、名簿順でヤナギ(私)の前にムラカワ君という片足・片腕に軽いマヒを持つ子と後にヨシダ君という小柄でギョロ目の子が並びました。

ムラカワ君は立って行列に並び続けるのもツラそうで、フラフラしながらブツブツ何かつぶやき続け、間近で見る彼の唇の色もムラサキ色(?)に近い感じで子供の自分の目にも(半病人)のように見えたのでした。今思い返すと本当に申し訳ないと思うのですが、なるべく前にいる彼との間に距離をとっ

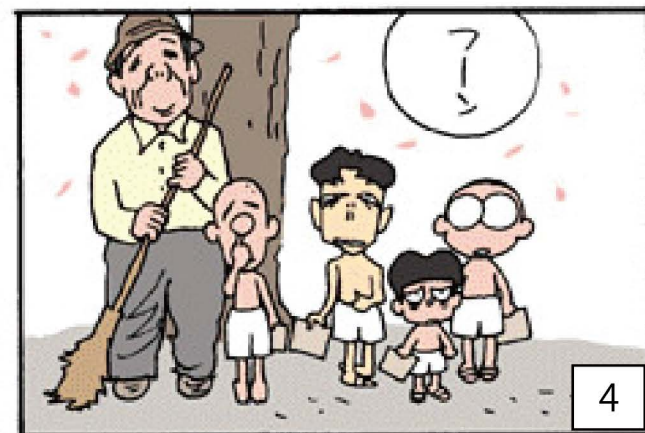
て並んでいたと思います。

すると突然、後ろからヨシダ君の怒声が飛んできたのでした。なんと言われたのか…「ボヤボヤすんな、行列が前に進んだるやないか!」そんな感じで怒鳴られドンと背中を突かれました。

それまで、こんな風に突き飛ばされ怒鳴られたことがなかったのだからショック、でも前のムラカワ君と距離をとりたくて進まなかった自分にヨシダ君がイラついたのだなと理解できたので何も言い返せませんでした。

それ以来、「ヨシダは怖いなあ」という先入観が心の隅に残り、クラス委員長にも選ばれた彼に親近感を持つことが出来ませんでした。しかし2年後に夏休みをはさむ約40日間を僕は急性肺炎で死線をさまよい学校を休みました。

その時、心配したクラスのみんなの励ましの手紙をクラス代表として病床の僕に届けてくれたのは級長のヨシダ君だった。まだ熱が下がらなかったで顔をあわすことができず彼が玄関で「はやく元気になってください」と言ってくれた声だけを聞き、自分の彼に対して持っていた先入観(誤解)を恥じたのでした。



東成区の昭和

(16) 新入生



東成区の昭和

(17) 新入生



東成区の昭和

(18) 新入生



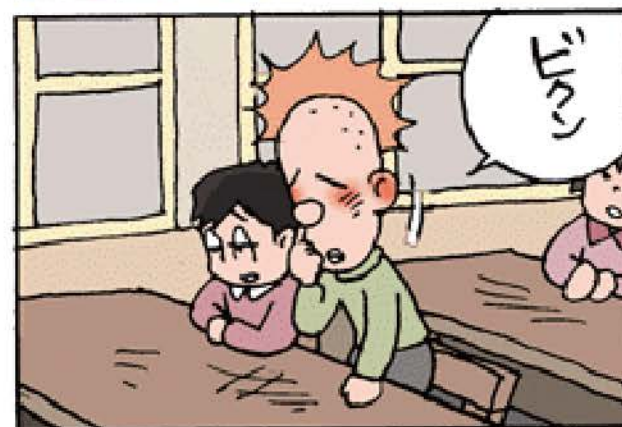
東成区の昭和

(19) 新入生



東成区の沼和

(22) 新入生



東成区の沼和

(23) 新入生



東成区の昭和

(24) 新入生



東成区の昭和

(25) 新入生



東成区の昭和

(26) 新入生



東成区の昭和

(27) 新入生



東成区の昭和

(28) 新入生



東成区の昭和

(29) 新入生



東成区の昭和

(30) 新入生



東成区の昭和

(31) 新入生

